

# News Release

2017年5月12日

## 昭和産業株式会社 平成29年3月期決算の発表について

昭和産業株式会社（社長：新妻一彦）の平成29年3月期連結決算は、売上高233,206百万円、経常利益9,514百万円となりました。平成30年3月期連結業績予想については、売上高2,430億円、経常利益83億円を見込んでおります。

### 【平成29年3月期連結決算】

当連結会計年度の我が国経済は、為替や株価の不安定な動き等により、先行きが不透明な状況であり、引き続き個人消費も伸び悩んでおります。

食品業界においては、原材料価格の変動などによる製品価格の改定も発表されており、依然として厳しい経営環境が続いております。

このような状況の中、当社グループは、2012年（平成24年）よりスタートした「中期経営計画12-16」が最終年度に入り、6つの基本戦略「①基盤事業の持続的成長」「②新たな分野への挑戦」「③海外事業の強化」「④効率化の推進」「⑤グループ連携の強化」「⑥CSR経営の推進」の各種施策の推進に努めてまいりました。

当連結会計年度においては、引き続き「①基盤事業の持続的成長」の基礎となる販売物量の拡大を推し進めるとともに、原材料価格等に見合った製品価格の適正化に努めてまいりました。

研究開発においては、社内各所に分散していた「研究」「開発」「技術」の活動拠点を一か所に集約した「RD&Eセンター」（千葉県船橋市）を建設し、2016年（平成28年）9月1日より業務を開始いたしました。当社の強みである多様な穀物資源を生かした総合力をさらに強化するとともに、お客様とのコミュニケーションの場として、昭和産業グループならではの複合系シナジーソリューションをご提供してまいります。

また、当社100%子会社であるグランソールベーカーリー株式会社が運営を行う、株式会社セブンイレブン・ジャパン向けの「冷凍パン生地工場」を建設し、1月1日より稼働いたしました。

「④効率化の推進」においては、鹿島工場等生産部門を中心にローコストオペレーションを推進いたしました。

一方、発送費の増加等により販売費及び一般管理費が、前年同期に比べ744百万円増加いたしました。

これらの結果、当連結会計年度の経営成績は、連結売上高は233,206百万円と前年同期に比べ14,616百万円（5.9%）の減収となりました。営業利益は8,786百万円と前年同期に比べ835百万円（10.5%）の増益、経常利益は9,514百万円と前年同期に比べ536百万円（6.0%）の増益、親会社株主に帰属する当期純利益は6,167百万円と前年同期に比べ225百万円（3.8%）の増益となりました。

## 【平成30年3月期連結業績予想】

国内経済情勢につきましては、緩やかな回復基調が期待されるものの、為替や株価の不安定な動き等により、先行きの不透明な状況が継続するものと予想されます。

当社グループは、穀物の一次加工を主な事業としており、小麦、大豆、菜種、とうもろこしなどの穀物原料相場や為替相場の影響を受けます。今後も穀物原料相場や為替相場は不安定な状態が続くとみられ、当社グループを取り巻く経済環境は引き続き厳しい状況が予想されます。

このような状況において、当社グループは、当社90周年を迎える2025年度のありたい姿（長期ビジョン）「SHOWA Next Stage for 2025」を策定し、その実現に向けた1st Stageと位置付ける「中期経営計画17-19」を2017年（平成29年）4月よりスタートさせております。更なる企業価値の向上に努めることで厳しい経済環境に対処してまいります。

平成30年3月期の業績は、連結売上高2,430億円、連結営業利益76億円、連結経常利益83億円、親会社株主に帰属する当期純利益53億円を見込んでおります。

以上

この件に関する報道関係の方々のお問い合わせ先

昭和産業株式会社 経営企画部

コーポレート・コミュニケーション室 担当：久田

〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号

TEL：03-3257-2042

FAX：03-3257-2097